



応用期セミナーがありました。

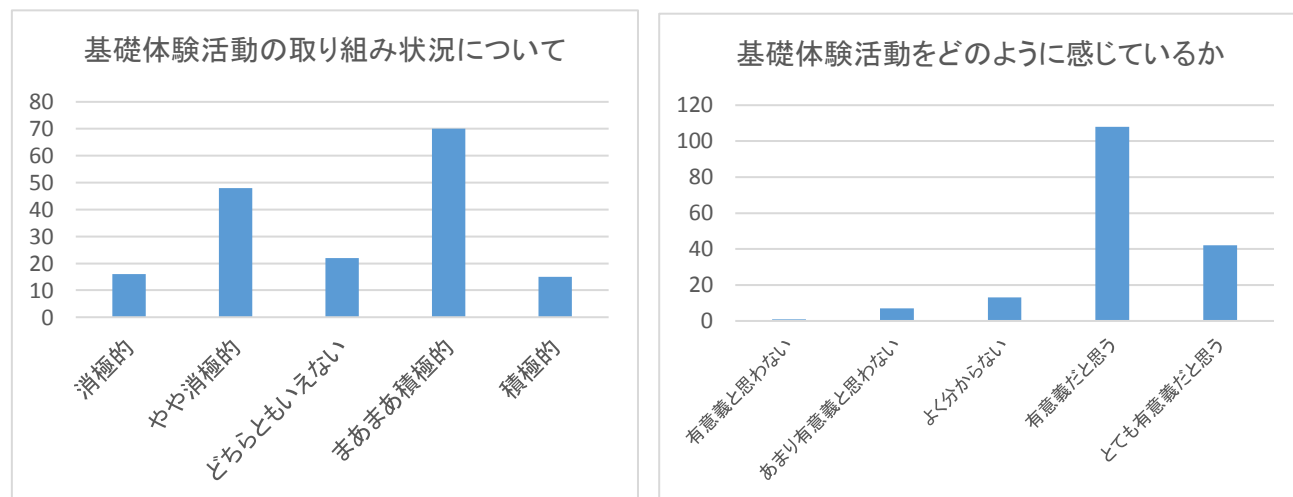
先週12月1日(金)に、3回生を対象にした応用期セミナーが行われました。教育学部の3回生は、後期の教育実習(実習Ⅳ・Ⅴ)期間の9月から12月を実習semesterとしています。学生は、その期間に附属学校園での教育実習の学びと、公立学校での教育体験を互いに往還させながら教育実践力を高めることをねらいとして、2006年より学校教育体験活動の推進に取り組んでいます。

この応用期セミナーには、2つの目的があります。1つ目は、実習semesterにおける体験活動の実際をふまえ、一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにすることです。2つ目は、教育実習及び実習semesterでの活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を強く促すことです。

本セミナーは大学会館3階にて行い、実習semesterの体験発表会からスタートしました。3名の代表学生は、semester体験で学んだことや見つかった自分の課題など、具体的な事例を交えながら堂々と語りました。その後、会場を移して、4回生のピア・サポーターにも来てもらい、グループ討議を行いました。各グループでは、教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴや実習semester体験の成果と課題を共有したり、今後、何にどう取り組んでいけばよいか話し合ったりしました。進路選択に悩んでいる学生にとって、残りの大学生活を有意義に過ごしていこうという気持ちを高める貴重な時間となりました。

応用期セミナーのアンケートより

応用期セミナーを終えた172名に、今年度前期(4月～9月)までの活動を振り返って、答えてもらいました。多くの3回生は、基礎体験活動を有意義な活動であると感じている反面、取り組み状況については、二極化になっている実態がアンケート結果より分かりました。



3回生の感想より

☆semester体験者の学生発表について

○自分も同じような体験をしたので、共感することがほとんどでした。ただ、自分以外にも大勢の人がsemesterで現場に行き、様々なことを感じて帰ってきているんだなと思い、semester活動は本当に有意義な活動だなと思いました。3人も目的意識がしっかりしていて、芯をもってsemester活動に参加しているので、見習いたいです。教師になりたいって思っている人がいれば、semester活動に積極的に参加することをおすすめしたいと思いました。

○3人の発表者の話は、「子どものために」という視点が全員にあるなと感じました。授業づくり、教師のかかわりと、様々な方面での話でしたが、みんなが「子どものためによりよくするには」という考えがあったからこそ、あのような視点の発表になったと思いました。子どもがいるということは当たり前と思うかもしれないが、それは本当にかげがえのないことで、だからこそ大切にしたいし、より良い授業、学級経営、素敵な学級づくりを目指していきたいと思いました。また、自分自身を振り返り、自分と向き合うことも重要だなと思いました。

☆グループ別協議について

○グループの人の成果や課題を共有して、自分では気づかない課題も見付き、共感することができた。実習やsemesterで皆さんがたくさんことに気づき、学ばれていると分かった。先輩方の話を聞いて、まず今日から何ができるかなどをしっかりと考えることができた。今の自分が、何ができるのかを考え、教員採用試験に向けて早め早めの行動をとりたい。

○自分は教師になりたいという気持ちはあるけど、できないかもということで進路に悩んでいた。自分と同じ悩みをもっている同じグループの人と話をし、私だけが悩んでいるわけではないと分かって、少しホッとした。これまでではできないを言い訳にして、情報収集や勉強をしないで逃げていたけど、今回4回生の話を聞くうちに、とりあえず行動してみようと思った。グループ協議がすごく良かったし、これをきっかけにがんばろうと思った。

